

東欧行政視察記

東ドイツ ポツダム市

もりあがる国防意欲

ポツダム市は、日本の京都のような古い静かな都市である。オ二次大戦の終結をもたらした連合軍の首脳が一堂に会し、ポツダム条約が調印されたポツダム宣言の都市として知られている。

ホテルをバスで午前九時に出発、外気は十三度位で寒さを覚えた。

最初の見学場所、

ポツダムの名を近代史の一ページに書きとどめた、ポツダム条約の調印の場となったツェッティリンホノ宮殿へ向かった。

ガイドは昨日の東独政府派遣の女性役人と日本女性、若い東ドイツの男子大学生の三人である。

途中の風景は非常に木が多く、街路樹等も大きくて日本とは比較にならない。また兵舎や軍人が非常に多く目につき驚かされた。

やはり同一民族でありながら共

へその六

横芝町長 佐瀬 哲司

産園の東ドイツ、自由主義国の西ドイツと、主義主張を異にしている悲劇の国なる故かと痛感した。

この国は十八歳になると十八か月の兵役の義務が果せられておりその年限が終わらないと、大学に進学できないことになっていると聞き兵隊の多い理由が理解できた。

日本の若者は幸福だ。日本人の一部は軍隊がどうのこうのと論議をたたかわしているが、共産圏の国民は、国は自分達で守るんだという強い意欲をもっており、ヨーロッパのように隣国との間に侵略占領を経験している国民性と島国日本との考え方の違いだ。

原爆投下 決定の会場

一時間程で目的地である宮殿に到着。この建物は、昔はドイツ皇帝が皇后と共に私的に週末を過ごした宮殿で、赤レンガの二階立てでイギリス風のスタイルであった。

敷地は非常に広大で樹齢百二十百年という老樹が立ち並び、リス等が自然のまま放し飼いにされており、日本では想像もつかないような大型の自然公園になっていた。建物の内部は、往時の歴史を物



【ポツダム条約調印の場となつた宮殿の正面玄関前にて】

今度は一転して、戦中有名であったナチスヒトラーの強制収容所跡を見学した。

広大な敷地の中に、当時の正門がそのままの姿で保存されており特に収容所の入口には、成績が悪く思想的にも転向しない人々を、収容者の面前でみせしめに殺したという首吊り場が、そのままの姿で保存されていた。

収容所の見学後、いよいよ東ドイツ民主共和国の首都である東ベルリンへと向かった。

経済力誇る 首都ベルリン

途中のレストランで昼食をとつたが我々外国人は東ドイツ人とは同席させず、食事も粗食で有名な東ドイツらしく簡単なものだった。

首都ベルリンはさすがに立派で、車の数も東京と変わりなく、ビルが林立し、この国の経済力の強さを感じた。

我々の宿る「メトロポールホテル」の玄関前には歓迎のための日の丸が掲揚されており、日本人には好感を抱いている国だと感じた。

このホテルは四年前にオープンしたもので、東ベルリンでは最高級のホテルとのことであった。

部屋数は三百室、全室テレビ、ラジオ、エアコン、バス付きであり、サウナ、マッサージ室もあり、今迄の旅行中で最高のホテルだった。共産圏には珍しく、浴室には歯ブラシ、毛髪用の油、シャンプーなども備えてあり、サービスの良いのには驚いた。恐らく外貨獲得のため自由主義国の観光客を対象にしているようだ。

日本人には 好感情

夕食後のひとときを市内見学に出かけた。小型のスーパーに入ってみると品物は少ないが、お客はたくさん入っていて混雑を極めていた。数店見て回ったが、書籍類や台所用品等は豊富だが、衣類や電気製品など高級品は品が少なく一般の人は列をつくって買う始末であった。

また一般市民の衣服は、なかなかきれいなものを着用しており日本と変わらない。途中で警察官に道をきいたが、手振り親切に教えてくれ、日本人に対しては一般市民も好感をもっているような印象を受けた。

(つづく)

ヒトラーの 強制収容所